

まえさわ



「重み」ある看板を引き継ぐ岩淵祭典実行委員長（右）

22年度奥州前沢42歳厄年連「舞西雅成会」（後藤利明会長、会員数206人）の祭典事務所開きが1月9日、約90人が出席し旧絹川書店で行われました。

神事に続いて看板引き継ぎが行われ、岩淵健一祭典実行委員長が前年度42歳厄年連の志和正浩祭典実行委員長から、歴史ある事務所看板を引き継ぎました。引き継ぎ後、後藤会長は「県南地方に春を告げる前沢春まつりの成功に向けて頑張っていく」と、決意新たにあいさつ。同会が取り組む創作演舞は「紅き躍動 醇風之舞」。「前沢に人情味あふれる風が吹き続けるように」との願いを演舞に込め、祭りを盛り上げます。

春まつりへ向け決意新たに
前沢42歳厄年連が祭典事務所開き

まちの話題



えさし

厳寒のなか男衆らが裸祈願 伊手熊野神社蘇民祭



火たき登りで勇ましい姿を見せる男衆

伊手熊野神社蘇民祭は1月16日夜から翌未明にかけて、同神社境内で開かれました。時折雪がちらつく厳寒の中、厄年を迎える男衆らが下帯に足袋姿で火たき登りや蘇民袋争奪戦を繰り広げ、五穀豊穡と厄よけを祈願しました。

県内最大といわれる火たき登りでは、静閑な山あいに男衆の「ジャッソー・ジョヤサー」の掛け声が響き渡り、赤々と燃える炎が空を染めました。400年以上の伝統を持つ同祭は昭和35年に一度中断しましたが、45年に有志が保存会を結成し再開。50年からは地区全域の協力を得て、今日へと歴史をつないでいます。

米粉の可能性に腕を振るう 米粉特産品コンクール

奥州ブランドの構築と米の消費拡大を目的とした「奥州ブランド発信！米粉特産品コンクール」が1月28日、江刺生涯学習センターを会場に開催されました。米を加工した米粉を使った加工食品を募集したこのコンクールは、1団体25人からダンゴ汁や米粉餃子、米粉まんじゅう、ロールケーキなど26品の出品があり、米粉の未知の可能性を発見できたコンクールとなりました。

審査は「商品化の可能性」「アイデア」「味・見た目」を基準に行われ、高橋千鶴子さん＝胆沢区若柳字甘草＝出品の「田舎のチュイール」（瓦の意味のあるフランス語で、固めのクッキーのような食感の菓子）が最優秀賞に輝きました。高橋さんは「米粉は粘りが出ないので使いやすかった。産直でそば粉を使ったものを販売しているので、米粉のものも販売してみたい」と話していました。



最優秀賞に輝いた「田舎のチュイール」を持つ、考案者の高橋さん

ころもがわ

地区の伝承紙芝居も初披露 衣川歴史かるた大会

衣川地区振興会（佐藤利男会長）が主催する第2回衣川歴史かるた大会が1月8日、衣川地区センターで行われました。地域の小学生17人が参加し、かるたや紙芝居を通して楽しく地域の歴史を学びました。

今回は、赤い羽根共同募金の支援で制作した紙芝居「衣川と前九年の合戦」もお披露目。源義家と安倍貞任が歌を詠み交わした一首坂伝説を伝承する内容です。絵を描いた矢崎木綿子さん＝同区下大森＝が臨場感たっぷりに読み始めると、戦国時代へとタイムスリップ。衣川小4年の小野寺矩人くんは「決戦の場面が迫力がありおもしろかった」と感想を話していました。



制作した紙芝居を披露する矢崎さん

元気いっぱい冬を楽しむ 黒石親子ジャンボかるた大会



かるたのために元気に飛び込む児童

第22回黒石親子ジャンボかるた大会は1月10日、黒石小学校校庭で行われました。地元の親子ら約120人が参加し、雪上に並べられた大きなかるたを取り合いました。使用されたかるたは児童の手作りで、地域のPRや防犯などをテーマにした絵が描かれています。

ことは雪にも恵まれ、絶好のジャンボかるた日和となりました。札が読み上げられるのを合図に、参加者は一斉にスタート。広い校庭から絵札を見つけると、絵札めがけて勢いよく飛び込んでいました。中には雪まみれになっている姿もみられ、会場は笑顔に包まれていました。

みずさわ

新年の福を願い獅子が舞う 梶乃宮流角塚権現舞

「厄を払い福を招く」といわれる梶乃宮流角塚権現舞の保存会（村上謙会長）が1月9日と10日に、南都田の辻地区を回りました。古くから地区に伝わるこの舞は、一度途絶えた時期もありましたが、昭和58年に有志により復興され、現在に伝わっています。当日は11人による一行が各家庭を訪問し、齒に魔を払う力があると言われる獅子頭で、赤ちゃんの頭をかみ健康を祈願しました。千田徹さん宅を訪れた獅子は、家族が見守るなか舞を披露し、6カ月になる孫の莉子ちゃんとその2人のお兄ちゃんの頭を見事バクリ。千田家には早速、笑顔という「福」が訪れていました。



こわもての獅子頭が頭をひとかみ

いさわ